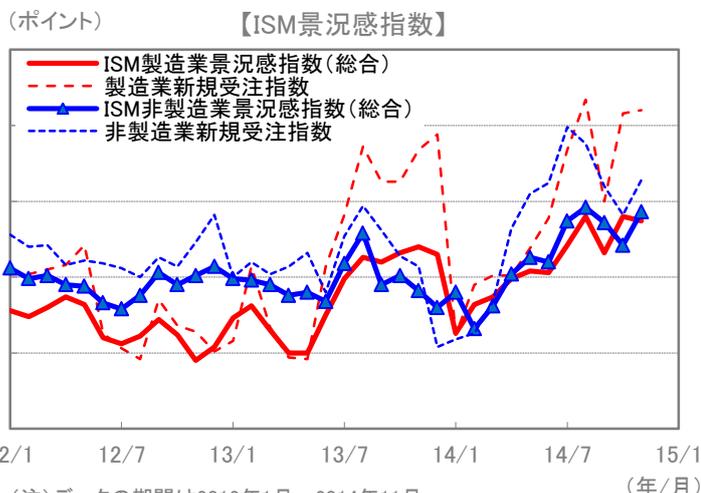


## 今日のトピック 最近の指標から見る米国経済(2014年12月) 企業景況感、雇用環境ともに良好な水準が続く

### ポイント1 企業景況感は引き続き高水準

新規受注指数は60ポイント超

- 11月のISM景況感指数は、製造業が前月比▲0.3ポイントの58.7ポイント、非製造業が同+2.2ポイントの59.3ポイントと、引き続き高水準を維持しました。新規受注指数を見ると、製造業が66.0ポイント、非製造業が61.4ポイントとともに前月から上昇し、先行きの堅調さを示しています。
- 7-9月期の実質GDP成長率は前期比年率+3.9%と、速報値の同+3.5%から上方修正されました。個人消費が同+2.2%に上方修正されるなど、米国経済は底堅く推移しています。



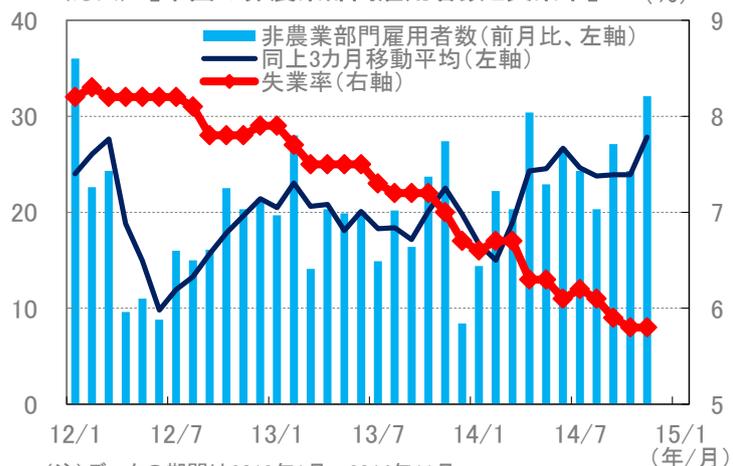
(注)データの期間は2012年1月～2014年11月。  
(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### ポイント2 雇用環境の改善続く

雇用者数は2012年1月以来の増加

- 11月の雇用統計は、非農業部門雇用者数が前月比32.1万人の増加となりました。市場予想(ブルームバーグ集計)の同23.0万人を上回り、9月、10月分は合計4.4万人上方修正されました。失業率は5.8%と前月と同水準でした。
- 長期失業者(27週以上)やパートタイマーの割合が低下し、雇用の「質」の改善も進みました。また、平均賃金は前月比+0.4%と2013年6月以来の伸びとなり、賃金が上向く兆しも見られます。

(万人)【米国の非農業部門雇用者数と失業率】 (%)



(注)データの期間は2012年1月～2014年11月。  
(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### 今後の展開 賃金、物価動向が点検されながら、2015年後半の利上げが見込まれる

- 11月はISM景況感指数が高水準を維持し、雇用環境も「質」を伴って改善しました。雇用者数の高位での増勢が維持されていることから、今後も失業率は低下することが見込まれます。
- 平均賃金の伸びを前年同月比で見ると、11月は+2.1%と足元まで低位で安定しているほか、10月の個人消費支出価格指数は同+1.4%とFRBの目標とする+2%を下回っています。物価上昇ペースは緩慢なままです。
- 雇用統計の改善などから今月の16日から17日のFOMCでは、低金利政策を「相当期間」維持するとの文言の削除などが注目され、早期利上げ観測が強まっています。ただし、利上げについては緩慢な物価動向に加え、雇用関連指標などが幅広く点検され、物価や雇用の改善が伴うと見込まれる2015年後半の実施となりそうです。

ここも  
チェック!

2014年12月08日 米国の雇用統計(2014年11月)  
2014年12月08日 今週に迫った「暫定予算」の期限(米国)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。